

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

新年のご挨拶

全国酪農業協同組合連合会

代表理事会長 砂金甚太郎

農林水産省生産局長 今城健晴

嫁・婿が語る酪農の魅力／栗野翔太さん

購買部だより

分析センターだより

平成27年度 全酪連会員職員研修会



酪農トピックス／

「兵庫県酪農業協同組合創立総会」が開催される(大阪) ほか

第23回 ロイヤル・ウインターフェア視察と米国・カナダ酪農視察研修
酪政連活動報告

全国酪農協会発行の企画・制作・出版書籍のご案内

日本酪農見て歩紀 (青森県東北町 (有)ビッグファミリー)



1

2016 January No.604



全国酪農業協同組合連合会

酪農業の将来に対する不安を払拭すべく 現状の打開を図る

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

砂金 甚太郎



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊社事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成28年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

まず昨今の内外の情勢についてですが、世界経済においては、アメリカ経済は好調な個人消

費と設備投資に牽引されることで回復傾向が続いております。一方、欧州圏においては、個人消費の持ち直しが景気を下支えするなど、先進国を中心に緩やかな成長が期待されていましたが、昨年11月にフランスのパリで発生した同時多発テロが、今後の先行きに大きな影を落としています。また、中国経済は国内需要の鈍化などにより景気が減速しており、資源価格下落の影響などから、ロシアやブラジルなどの新興国の景気にも悪化の傾向が見られます。

日本経済においては、金融緩和政策を背景として、企業収益が明確に改善することで設備投資は増加傾向にあり、雇用環境も着実に改善していることから、個人消費も堅調に推移しております。しかしながら、新興国経済の成長鈍化や円安による物価の上昇など、実質所得の減少に直結しかねないリスクも内在しており、引き続き今後の動向に注視する必要があります。

こうした中、我が国の酪農を取り巻く情勢に目を向けますと、米国等の飼料穀物情勢や昨今の円安傾向により飼料価格が高止まりの状態にあるばかりでなく、近年では酪農経営を直撃するような天災も頻発し、生産現場では大きな負担を強いられています。そのため、依然として酪農家戸数の減少や乳牛頭数の減少傾向が続いており、今後の規模拡大や経営継続の意欲低下も懸念されるところです。

また、昨年10月にはTPPが大筋合意に至りました。酪農・畜産に関しては、一定の配慮はされたものの、乳製品の一部や牛肉について、段階的に関税率が引き下げられることとなります。この合意内容が、今後の我が国の酪農業に与える影響については、この先、増大し多岐にわたる可能性があります。綿密な分析が必要となりますし、酪農の将来に対する生産者の不安を払

拭するためにも、業界が一丸となって対応に当たらねばなりません。

日本の酪農は、安心・安全で高品質な牛乳乳製品を毎日安定供給することにより日本人の栄養・食生活を支えています。また、学校給食を通じて、子どもたちの健康な体づくりに多大な貢献も果たしております。それだけではなく、飼料作物などの生産・利用を通じた資源循環型農業の基幹として、土地を有効に活用することで、国土の荒廃を防ぐ役割をも担っており、まさに我が国にとって欠かせない産業であり、現在の厳しい状況をいかにして打開するかが大きな課題となっております。

そのため、私ども全酪連といたしましては、酪農専門農協の全国連として、今後とも全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、昨年度から始まった第十次中期事業計画に基づき、酪農生産資材の安定供給や経営支援の強化、搾乳後継牛の確保などを通じて、我が国酪農生産基盤の維持・拡大に寄与していく所存であります。

最後になりますが、全国の酪農生産者・会員役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭の御挨拶

農林水産省生産局長 今城 健晴



明けましておめでとうござい
す。

平成28年という新しい年を迎
えるに当たり、一言、御挨拶を申
上げます。

昨年11月、TPP大筋合意に
伴い、内閣総理大臣を本部長とす
る「TPP政府対策本部」にお
いて「総合的なTPP対策政府
大綱」が策定されました。農林水
産分野については、重要品目を中
心に、意欲ある農林漁業者が安心
して経営に取り組めるようにする
ことにより確実に再生産が可能と
なるよう、交渉で獲得した措置と
合わせて、経営安定・安定供給へ
備えた措置の充実等を図ることと
しています。

また、成長産業化に取り組む生
産者がその力を最大限に発揮する
ために、輸入品からの国内市場の
奪還、輸出力の強化、マーケティ

ング力の強化、生産現場の体質強
化・生産性の向上、付加価値の向
上など、成長産業化に取り組む生
産者を応援いたします。

夢と希望の持てる「農政新時
代」を創造し、努力が報われる農
林水産業を実現するために、未来
の農林水産業・食料政策のイメー
ジを明確にするとともに、生産者
の努力では対応できない分野の環
境を整え、農林水産業の持つ様々
な価値や魅力、日本の食の潜在力
や安定供給の重要性などに対する
理解や信頼を高め、「農政新時代」
を日本の輝ける時代にしていくた
め、全力を尽くす考えであります。

つきましては、年頭に当たり、
今後の畜産行政について基本的な
取組方針を何点か申し述べます。

TPPについて

関税削減による長期的な影響が

懸念される中で、農林漁業者の将
来への不安を払拭し、経営マイ
ンドを持った農林漁業者の経営発展
に向けた投資意欲を後押しするた
め、畜産クラスター事業の拡充な
どの畜産・酪農収益力強化総合プ
ロジェクトを推進します。具体的
には、省力化機械の整備等による
生産コストの削減や品質向上など
収益力・生産基盤を強化すること
により、畜産・酪農の国際競争力
の強化を図ります。

また、TPP協定発効後の経営
安定に万全を期するため、生産コス
ト削減や収益性向上への意欲を持
続させることに配慮しつつ、協定
発効に合わせて、牛・豚マルキン
の法制化、補填割合の引き上げ、
肉用子牛保証基準価格を現在の実
情に即したものに直直す等の措置
を講じることとします。このほか、
乳製品については、出来る限り準

備を急ぎ、平成29年度から生ク
リーム等の液状乳製品を加工原料
乳生産者補給金の対象に追加する
とともに、補給金単価を一本化す
る等の措置を講じることとします。

生乳需給及び酪農経営の安定等

生乳生産量は、乳用牛飼養頭数
の減少等の影響により、減少傾向
で推移していましたが、生産者が
増頭の取組を強化したことにより、
直近では回復の兆しが見られま
す。当省としましては、酪農経営
の安定を図り、生乳の需給に応じ
た牛乳・乳製品の安定供給を確保
することが重要であると考えてお
り、加工原料乳生産者補給金制度
等の酪農経営安定対策、畜産クラ
スター事業を活用した施設整備や
機械のリース導入、性別別精液の
活用等による優良な乳用種後継雌
牛の確保への支援等による生乳生

産基盤強化対策を実施するとともに、学校給食用牛乳の供給への支援、国産牛乳・乳製品に係る新技術開発や輸出に向けた環境整備への支援等による国内外の需要の拡大等にも取り組んでまいります。

肉用牛生産等の 畜産経営の安定等

昨年に引き続き、牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵等の畜産物や子牛価格が高い水準で推移しておりますが、当省としましては、肉用牛生産をはじめとする畜産経営の安定を図っていくため、引き続き、肉

用子牛生産者補給金制度、牛マルキン等の経営安定対策を着実に実施してまいります。さらに、「攻めの農林水産業」を推進するに当たって、牛肉をはじめ、世界に誇れる高い品質を有している我が国の農林水産物・食品について、従来から力を入れてきたアジアのみならず、より購買力の高い人口を多く擁するEUや米国等の市場も重視し、輸出を促進してまいります。

一方で、肉用子牛生産については、生産者の高齢化等により農家

戸数や飼養頭数が減少しており、肉用牛の繁殖基盤の強化が喫緊の課題となつているところです。

このため、引き続き、優良繁殖雌牛の導入、乳用牛に和牛の受精卵を移植することによる和子牛の生産拡大、発情発見装置などと情報通信技術（ICT）を組み合わせた機器の導入、畜産クラスター事業を活用した施設整備や機械のリース導入等により各地域の繁殖基盤強化を支援してまいります。

飼料自給率の向上

自給飼料基盤に立脚した足腰の強い畜産経営の実現を図るため、生産性向上のための草地改良、飼料生産組織の育成、繁殖雌牛の放牧の活用、飼料用米やエコフィード等の多様な国産飼料の生産・利用拡大等、飼料自給率の向上に向けた取組を推進してまいります。

高水準で推移する

配合飼料価格への対応

配合飼料価格については、短期的かつ急激な上昇に対しては配合飼料価格安定制度、中長期的な高

止まりに対しましては経営安定対策を組み合わせることで、畜産経営の安定を図っております。

また、TTP政策大綱を踏まえ、配合飼料の価格形成の仕組みについては、本年秋を中途に生産者、配合飼料メーカーを始め国民の意見を聞きながら、政策の具体的内容を詰めることとしております。

なお、配合飼料価格安定制度については、為替や穀物の国際相場の変動等を注視しつつ、補填財源の確保と借入金計画的な返済の両立を図り、制度の適切な運用に努めてまいります。

東日本大震災・原発事故からの 復旧・復興

原発事故に対応し、安全な畜産物を供給するため、適正な飼養管理の徹底と検査体制の強化、適切な草地除染と汚染廃棄物の処理等を関係省庁等と連携して実施するとともに、被災地及び周辺地域で生産・製造されている農林水産物を積極的に消費する「食べて応援しよう！キャンペーン」も推進してまいりました。

本年も、東日本大震災及び原発事故からの一日も早い復旧・復興が果たせるよう、引き続き取り組んでまいります。

皆様御承知のとおり、我が国の畜産業は、農業総産出額の3割を占める重要な産業であり、安全・安心な畜産物を消費者に安定的に供給するだけでなく、地域経済の維持・活性化、良好な景観の形成等の多面的な機能の発揮を通じて、国民生活において重要な役割を果たしております。

当省としましては、以上のような取組を着実に実施することにより、我が国の畜産業の一層の発展、充実を図るとともに、食の安全と消費者の信頼確保に努めてまいります。

皆様におかれましては、昨年にも増して、畜産行政への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

牛も人も健康で、 幸せな生活を送る

11月の嫁 栗野牧場（道東あさひ農協） 栗野翔太さん

「嫁・婿が語る酪農の魅力」第29弾として、
栗野牧場（道東あさひ農協）の
栗野翔太、伊久美夫妻にお話を伺いました。



嫁
婿
が
語
る

酪農の魅力 ②9



看板

——栗野牧場の概要について教えてください。

栗野牧場は、北海道の東部に位置する別海町にあります。別海町は人口をはるかに超える乳用牛が暮らす、非常に酪農が盛んな町です。所属組合である道東あさひ農協は、平成21年にJAべつかい、JA根室、JA上春別、JA西春別の4農協が合併した、生乳生産量日本一の農協です。

家族構成は、私（翔太さん・婿28歳）、妻（伊久美さん22歳）、義父（聡司さん58歳）義母（祐子さん54歳）



創介くん

とおばあちゃん（チエ子さん）。そして先日、息子（創介くん）が産まれ、新たな家族が加わりました。

総飼養頭数は80頭、うち搾乳牛頭数は約40頭。9頭ほどかわいいジャージーもいますよ。

——赤ちゃんの名前の由来は何ですか？

おじいちゃんが「しよ」の発音が難しいらしく、自分（翔太さん）のことを「そうた」と呼んでいたの
で、おじいちゃんと呼びやすい名前

として「そうすけ」にしましたが、残念ながらおじいちゃんは息子誕生前に亡くなってしまいました。でも気に入ったのでそのまま創介にしました。

——翔太さんの担当している主な仕事は何ですか？

自給飼料作りを含めた餌関係と搾乳が主で、哺育・育成以外のすべてです。お父さんがベッド掃除と育成と搾乳、お母さんが哺育と搾乳の補助を担当しており、現在は3人体制で作業をしています。

——お二人のご結婚までの経緯を教えてください。

△ご主人△
高校時代の部活が一緒で、6歳離れているので、OBと後輩という関係でした。

〈奥様〉

当時は顔見知り程度で、まさか結婚するとは思っていませんでした。第一印象は怖かったです。(笑)

〈ご主人〉

その数年後にそれぞれが、別海高等学校農業特別専攻科(高校卒業後に定時制で農業を学ぶ科)に入学する際に、偶然同期となり、その後の飲み会で実際に話してみても意気投合。交際に発展しました。

〈奥様〉

当時の栗野牧場は、私(伊久美さん)と両親の3人体制で、朝の作業は6時から13時過ぎまで、夜の作業は14時から23時ごろまでかかっていました。そんな中、専攻科で海外研修があり、両親を置いて1ヶ月ヨーロッパに研修に行きました。帰ってくると、作業面に限界を感じていた両親は、牛を減らし、離農に向けて準備をしており、驚きました。その後、主人と2人で話し合い、一緒に再建していくことにしました。

〈ご主人〉

当時は酪農を営んでいる実家の作業が終わり次第、朝晩栗野牧場

に手伝いに来て、昼間は専攻科の授業に向かう日々でした。そうしているうちに、実家の牛舎作業は、兄が主体でやるようになったため、栗野家と同居し、栗野牧場での作業を主にやるようになり、平成25年に入籍しました。

―ご実家の酪農との違いで、苦労したことはありませんか？

〈ご主人〉

実家の牛舎は新築で、自動離脱とレールのついたミルクカーに、自動給餌機での給餌だったので、手作業での給餌や、古い牛舎に慣れるまでは苦労しました。また、当時の栗野牧場では粕類を給与しており、飼槽掃除や給餌のタイミングなどにも戸惑いましたが、違和感を持ったところはほとんどん改良していきました。

〈奥様〉

当時は3人や4人いても大変だった牛舎作業を、今では旦那が一人でこなすことも可能なほどに改革され、昔から来ていたヘルパーさんが驚くほど、作業がスムーズで

楽になりました。あの頃は1日が24時間じゃ足りなかったです。

―翔太さんが考える、酪農の魅力についてお聞かせください。

酪農は、仕事上の問題も夫婦で一緒に悩んで一緒に解決していき、同じ目標を持てるところ。それが1番！

―聡司さん(義父)から翔太さんに言いたいことはありませんか？

若い二人は、「牛も人も健康で、幸せな生活を送る」という経営理念を持ち、しっかりとした戦略の



牛舎内部

もとやっているの、何も言うことはなく、あとは足を引っ張らないようにサポートしていくだけです。

―奥様から、旦那様へひと言

体を大切にして、あまり夜更かししないでね!!

―旦那様から奥様へひと言

こんな僕を拾ってくれてありがとう! 笑

―最後に、今後の目標や、計画を教えてください。

年々、個体乳量が上がってきているので、さらに上を目指していきたいです。

栗野牧場の皆様、この度は取材にご協力いただき、誠にありがとうございます。

そして、ご出産おめでとうございます。取材を通じてご夫婦、ご家族の仲の良さが伝わってきました。家族も増えて、今後ますますのご活躍が期待されます。

ロイヤル・ウィンターフェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修



▲ナショナルホルスタインショー

平成27年11月11日（水）から18日（水）までの8日間、（一社）全国酪農協会主催の「第23回ロイヤル・ウィンターフェア視察と米国・カナダ酪農視察研修」が開催されました。

今年の参加者は、第44回全国酪農女性酪農発表大会の発表者を含む総勢12名。羽田空港での結団式を終え、12時間弱のフライトを経てカナダ・トロント市に到着しました。



● 行程表

11月11日(水)	羽田空港よりカナダへ（トロント）へ
11月12日(木)	ナイアガラの滝観光 サミットホルム牧場（オンタリオ州）視察
11月13日(金)	ロイヤル・ウィンターフェア視察
11月14日(土)	空路、米国（サンフランシスコ）へ 米国酪農事情および北米乾草市場の動向について（講演会）
11月15日(日)	ヒルマー・チーズ工場視察 トニー&ファティマ ガルシア牧場（カリフォルニア州）視察
11月16日(月)	空路、カナダ（バンクーバー）へ
11月17日(火)	空路、バンクーバーより成田空港へ
11月18日(水)	夕刻帰国、解散

1日目 トロント市

トロント市はオンタリオ湖畔の
カナダ最大の都市で、経済・文化
の中心です。先住民の言葉で「人
が集まる所」という意味で、古く



▲トロント市庁舎

からビーバーの毛皮の取引などで栄えていたそうです。電車・バス・地下鉄などの公共交通機関も発達し、治安も日本並みに良いとの事です。

カナダは移民の国で、多種多様な国の人達が生活しているのが普通の状態であり、日本でいう「外国人」という概念も無く受け入れてもらえる反面、それぞれの文化による考え方の違いを「そういったもの」として認め合わなければ、日常生活においても様々な軋轢が生じる事もある様です。

サミットホルム牧場視察

案内をして頂いたカールさんと弟さん、息子さんの3名の協同経営で、他に社員2名、パート10名を雇用しています。年に2〜3回、感謝の意を込めて従業員と食事をを行う他、従業員の家族も招待し総勢45名程度の食事をを行う事もあるそうです。また、従業員教育にも力を入れておられ、研修に係る旅費等は牧場で負担するとの事で、とても働きやすい職場であると感じました。実際、従業員の続年数も長いとの事です。

牛舎はフリーストールで飼養頭数約850頭、うち搾乳牛410頭。搾乳作業は12頭ダブルのミルキングパーラーで1日3回、1回あたり約4時間半の時間がかかり2名のパートで行います。搾乳管理をコンピューターで行い、パート従業員による搾乳作業についてはその結果をデータで示す事で個々の技術向上に繋がっています。1頭当たりの平均乳量は年間12,500kg、今年は540万ℓの生



▲サミットホルム搾乳風景

乳を販売する見込みで、収入の95%が生乳販売、残りが個体販売との事です。耕地面積は360haで、トウモロコシとアルファルファを外部委託で作付し、労働力と設備投資の軽減を図り、牧場スタッフは飼養管理等に集中します。

また繁殖障害、飼料作物の生育不良等が発生した場合には、外部専門家にアドバイスを求めています。「経営者として重要な事は、自分たちの周りに優秀な人材を集める事である」とおっしゃっていました。説明の途中にも逆に私たちに質問される場面もあり、世界各国から視察を受け入れる事で、

生産者の話を聞き自分たちも大変勉強になるとの事でした。

牛床には砂が使用されていました。砂は肢蹄への負担を軽減し、また細菌の発生も少なく、排泄物と混ざると後々様々な問題が起こる事もあるそうですが、牛にとつては非常に良い環境であり、この中の16〜18頭は累計の乳量が10万ℓを超えているとの事でした。



▲サミットホルムの企業理念が掲示されている



◀サミットホルム牧場
(敷料に砂を利用している)

2日目 ロイヤル・ウィンターフェア視察

ロイヤル・ウィンターフェアは、カナダのトロントで開催される世界最大の屋内農産物品評会で、今年は11月6日～15日まで開催され、世界中から酪農家、畜産家、農業家が集まります。農業の祭典として、農畜産物の品評会が行われる他、犬の演技、馬車レース、ロデオ、乗馬コンテストなども行われる様です。

今回はナショナル・ホルスタイン・ショーがおこなわれる11月13日に視察しました。東京ドーム17



▲酪農体験学習



▲グランドチャンピオン

個分という会場内にはバターやチーズなどの酪農関連製品の他、農機具、衣類や雑貨品などの様々なブース、フードコートなどがあり、農業祭といっても農業関連の企業のみでなく、様々な企業が協賛して盛り上げていくのだという気風があると感じました。また親子連れや、スクールバスで来た小学生の団体も多く、食育の一環としての役割もはたしている様です。

共進会は普段アイスホッケー場となるリコロシアムで開催されます。バックヤードも自由に行

き来でき、本番前の緊張感を感じる事ができます。出品される牛は世界最高峰の名に恥じずどれも素晴らしいものでした。

最後のグランドチャンピオン決定戦では、華やかなBGMが流され、照明が落とされる中、スポットライトを浴びて牛たちが入場してくると、会場から拍手で迎えられ、まさにショーといった演出です。スポットライトの中、審査委員長がじらす様に、並んでいる牛一頭一頭を回り、最後グランドチャンピオン受賞者とハイタッチをすると、会場は割れるような拍手と大歓声につつまれました。

3日目 サンフランシスコ市

サンフランシスコ市は全米で5番目の大都市で、人口密度は全米一です。公共交通機関が発達し、気候も温暖で、アメリカ人の住みたい街No.1との事です。一年365日のうち300日は快晴と言われ、反面この4年間は早魃に苦しんでいます。



▲坂の街 サンフランシスコ

米国酪農事情、及び北米乾牧草市場の動向に関する講演

全酪連サンフランシスコ事務所、生野所長より米国酪農事情に関する講演を受けました。

2012年の酪農家戸数は約6万戸弱。小規模層を中心に一貫して減少している。経産牛頭数は乳価に連動しながら増減を繰り返しており、近

年は増加傾向にある。しかし、このうちの60%は飼養頭数500頭以上の農家、3千数百戸に集中しているため、この動向に大きく影響を受けている。

生乳生産量は約9,300万tで基本的には右肩上り。最大の酪農州はカリフォルニア州で、1993年にそれまでトップであった伝統的酪農州のウイスコンシン州を抜いて以来トップを走る。この2州で米国全体の30%を占める。

米国の乳価は乳製品価格に連動して上下し、現在は脱脂粉乳価格が過去10年間で最低水準にあり、それに合わせて乳価も下落している。この様に、乳業者にとってはリスクの少ない乳価設定である反面、生産コストとの連動は無い為、酪農家にとっては厳しい状況にあり、最近はよりコストの安いアーモンド粕などの購入飼料を利用しているとの事。

米国政府はこの様な状況の中、従来の乳製品価格支持制度を廃止し、代わって乳価と



▲全酪連サンフランシスコ事務所 生野所長による講演

飼料コストの差額が一定水準を下回った場合に差額を保障する利幅保障プログラム(MMP)を2014年よりスタートさせた。最低保障は100ポンド当たり4ドルで、それ以上は掛金次第。現在、カリフォルニア州における生乳生産コストは飼料費を除いた労賃、電気代、水道光熱費等合計で推定6ドルを超えており、4ドルの最低保証では賄えないとの事。

続いて、ゼン・トレーディングサンフランシスコ支店の松岡さんより北米産乾牧草市場の動向についても講義を受けました。カリフォルニア州については旱魃の状況が深刻で、州から非常事態宣言が出される他、25%の節水が義務付けられ、「コロラド川の水を乾牧草通してアジアに輸出しているのではないか。」といった報道もなされている様です。

ヒルマーチーズ工場視察

ヒルマーチーズは1984年、12戸の農家の共同出資により設立されました。原料乳は近隣の酪農家より集乳しています。

視察に訪れた工場は、現在世界最大のナチュラルチーズ工場で、他にテキサス州にも工場があり、合計で一日に11,000tのチーズを生産する他ラクトース、ホエイプロテインを生産し、製造されたチーズは世界50カ国以上に輸出されます。従業員は860名で、365日24時間稼働です。環



▲ヒルマー社 見学者用にパネルを展示

境にも非常に配慮されており、この工場で使用される水の60%は製造工程の中で発生する水を再利用し、洗浄作業等に利用しています。水資源に対する日本との考え方の違いを感じさせられた他、敷地内にソーラーパネルを設置し、研究室棟の電力の一部を賄っているとの事です。

隣接するビクターセンターでは、ビデオやパネルで搾乳から製品までの流れを解りやすく展示する他、ガラス越しに製造ラインの一部を見学できるようになっており、自社製品等の販売も行われています。

トニー&ファティマガルシア 牧場視察

案内をして頂いたのはトニーさん。100年間続く牧場で、お父さんの代から働いていましたが、牧場主が亡くなられたのをきっかけに1990年に牧場を買い取ったものだそうです。

約240haの畑でトウモロコシなどを栽培する他、約120haの畑でアーモンドの栽培も行っています。牛舎はフリーストールで搾

▶ヒルマー社製造室内



乳牛は約700頭、未経産牛約700頭、乾乳牛約120頭、ホルスタインの他ジャージーも40頭ほど飼養しています。牛舎は400m弱もあり、舎内を端から端まで歩くのも一苦勞です。種付けは3回までは人工授精を行い、それでも付かない場合は自然交配とします。305日の平均乳量は約14,500kgで生産量が多い反面、免疫力の低下等発生する場合もあり、それを管理するのが難しいとの事です。



▲トニー&ファティマガルシア牧場



▲案内して頂いたトニーさん



▲歩くのが一苦勞の長い牛舎

近年は視察を受け入れてくれる酪農家は少なく、ガルシアさんの様な農家はとても貴重な存在になっています。

最後に

今回の視察では、世界最高峰の共進会や、酪農先進地域のカナダ・米国を視察でき、貴重な体験となりました。ツアーに参加された方々、全国酪農協会を始めとした全ての関係者の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。



▲サミットホルム牧場にて

平成27年度 全酪連会員職員研修会

会員組織の機能強化のため、会員職員のスキルアップを図ることを目的とした会員職員研修会を下記2カ所にて開催し、2講演を実施しました。

東日本：11月27日（金） 東京八重洲ホール（東京都中央区） 約40名参加

西日本：12月3日（木） ホテルセントラザ博多（福岡県福岡市） 約20名参加

前半は、農林水産省経営局 協同組織課 課長補佐の阿辺一郎氏による「改正農協法について」の講演が行われました。

概要 今回の改正は、①農業協同組合法の一部改正、②農業委員会等に関する法律の一部改正 ③農地法の一部改正、その他、農水産業協同組合貯金保険法の一部改正、農林中央金庫及び特定農水産業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法律の一部改正、及び農業倉庫法の廃止からなっている。今回の改正は、最近における農業をめぐる情勢の変化等に対応し、農業の成長産業化を図るため、主として農業協同組合、農業委員会及び農業生産法人について見直しを行うものである。

そのうち、農業協同組合法の一部改正については、①組合の事業運営原則の明確化、②組合の自主的組織としての組合の運営の確保、③理事等の構成の見直し、④組合の新設・分割・変更手続の設定、⑤農業協同組合中央会制度の廃止、⑥信用事業を行う農業競争組合等の会計監査人の設置義務化を主たる内容としている。

後半は、キリン社会保険労務士事務所 所長の入来院重宏氏による「マイナンバー制度について」の講演が行われました。

概要 マイナンバー制度とは「行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用に関する法律」に基づき、住民票を有する全ての人に番号を付与し、その番号を利用する制度である、平成27年10月に番号が通知され、平成28年1月から市社会保障、税金等の行政手続きにおいて利用が開始される、企業等の事業者においては、社会保障面では雇用保険、健康保険、厚生年金保険の資格の取得と喪失の届け、税の分野においては源泉徴収票扶養控除等申告書においてマイナンバー記載が義務付けられる。従って、従業員からマイナンバーを取得する事が必要となるため、業務フローの見直し、システム対応、就業規則規定等の見直しを行うと共に、マイナンバーや特定個人情報の漏洩などを防止し、必要かつ適切な安全管理措置を講じなければならない。



◀阿辺一郎氏



▲東日本会場



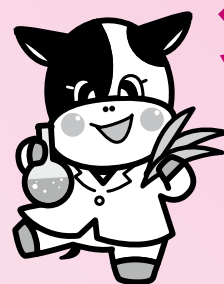
◀入来院重宏氏



▲西日本会場

なお、当研修会のご質問、資料請求のご希望がございましたら、全酪連指導・企画部（03-5931-8003）もしくは各支所指導組織課までお問合せください。

分析センター だより



2015年2月より全酪連分析センターは、世界的にも信頼されている分析機関であるDairy Oneの分析ネットワークの一員として、N-IR分析を行っております。

これまでの化学分析とは違い、短時間で一度に多くの成分値を得ることのできるDairy One N-IR分析は、大変ご好評をいただいております。分析センター職員一同大変嬉しく思います。



皆様、飼料の栄養成分分析は行われていますか？

同じ草種、例えばデントコーンといっても栄養成分は様々です。品種の違いはもちろん、地域や刈取りステージ、番草の違いにより成分は大きく異なります。これらの切り替わり時期などに牛の体調を崩さないためにも、飼料の成分

の把握というのとはとても重要になります。

今回は、飼料分析のポイントであるサンプリングの方法についてご紹介したいと思います。

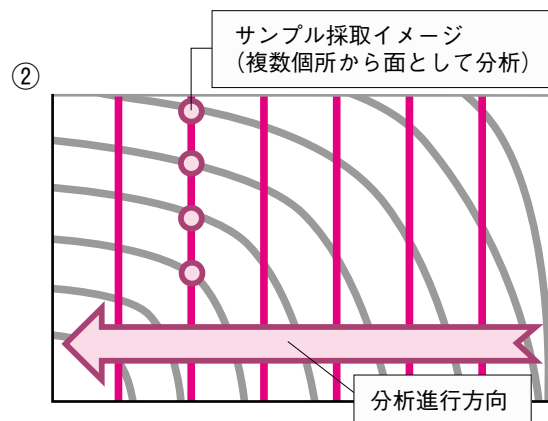
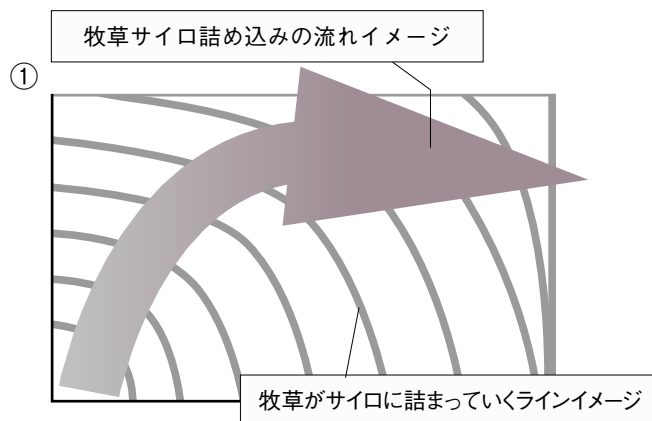
大場先生の技術レポートにもありますが、1つのサイロからできる限り複数の場所からサンプリングすることが重要となります。飼

料分析においては、「サンプリングで全てが決まる」と言っても過言ではありません。

**サンプリングは
同じような量で
複数の箇所から！**

採取時の偏りもそうですが、例えばバンカーサイロの場合、下図①のように詰め込んでいきますので、採取する箇所に注意しなければなりません。同じ草種であっても、圃場によって成分値は異なります。したがって、いくつかの圃場が混ざり合うため、②のように複数の箇所からサンプリングを行い、「面」として分析を行います。

表面は乾燥してしまうので50cmほど切り出してからサンプリングを行うというのが本来の方法です。しかし、踏圧が良くなかったバンカーサイロは非常に硬く、サンプリングはうんざりするほど困難を極めます。したがって、サンプリングに時間が取れない場合は、ローダーなどで切り崩した際に採取を行うのでも構いません。



複数の箇所から一掴みずつといった感じでいきましょう。

また、使用途中の栄養成分の経時変化もありますので、「面」として複数回(②赤のライン)分析を行うことが望ましいです。

また、ロールサイレージやロールベール、輸入乾草のベールの場合にも複数箇所からサンプリングを行うことが大切です。

本来の方法は無作為に5個ロールを選び、コアサンプラーを用いて1ロールにつき5か所から採取するということです。しかし、すぐに給餌しないものにまで穴をあけてしまうのは管理の面からも難しいことだと思います。また、コアサンプラーを持っていない方も多いかと思いますが。

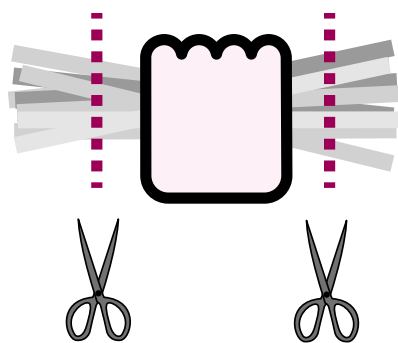
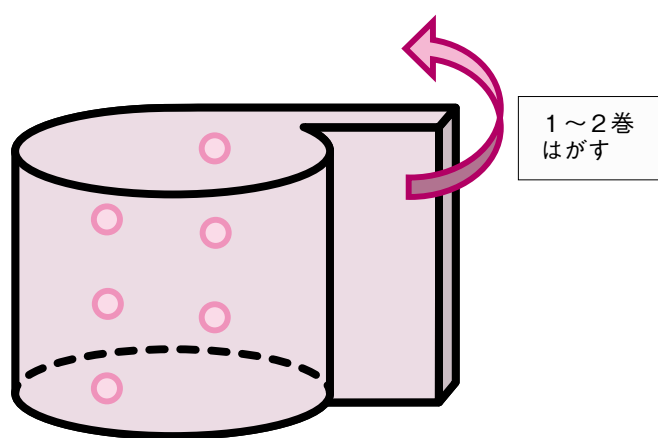
手作業で行う場合、気を付けていただきたいことは、まず直射日光の当たりにくい箇所を選び、1〜2巻かはがした後、最低でも上中下の3か所からサンプリングを行うことです。

そして、最も重要なのが、「引きちぎらない」ということです。引き抜いた場合、葉が落ちてしま

うので、「茎ばかりのサンプル」という非常に偏った分析値が出てきます。牧草を手でつかみ、その掴んだすぐ両サイドをカットし、引きちぎらないようにしましょう。そのままサンプル袋に入れてください。

簡素化して習慣化!

できる限り、毎回同じようにサンプリングを行うようにしま



しょう。

可能な限り簡略化することが、長続きさせるコツです。

「今、まさに牛に食べさせている部分の栄養成分を把握する」ということで頻繁に分析を行うことが望ましいのですが、同じロットで複数回分析を行えない場合は、「1回の分析値がすべてを表すわけではない」ということを忘れないようにしましょう。

全酪連 分析センターHPにて、分析可能サンプル・分析可能項目を掲載しております。

<http://www.zenrakuren.or.jp/bunseki/index.html>

上記のアドレスを直接入力いただくか、「ぜんらくれん NIR」で検索してください。

ぜんらくれん NIR

検索

HPはスマートフォンからご利用いただけます。▶



サンプルの送付先 および お問い合わせ先はこちら

全国酪農業協同組合連合会(全酪連) 購買部 分析センター

〒314-0103 茨城県神栖市東深芝2-14

TEL : 0299-90-1007 e-mail : z-bunseki@zenrakuren.or.jp

営業時間 : 9:00~17:00 (土日・祝日、12/29~1/3、8/13~15を除く)

皆様からのご依頼
お待ちしております!



名古屋
支所発

「女性研修会」を開催！

— 中部酪農青年女性会議 —



▲「Milks」の遠景

12月4日(金)、中部酪農青年女性会議（小笠原和美委員長）は名古屋市内で女性研修会を開催しました。

前半はフレッシュチーズとワインの店「Milks」にて昼食、後半は『満足度の高い酪農経営とは？』と題してセミナーを貸会議室で行いました。前者の会場「Milks」は、お店で提供される食材や販売品は愛知県西尾市の合同会社「酪」と提携しており、本年10月にオープン以来、女性客を中心に賑っているそうです。

参加者は43人と予想外に多く、店の座席数が足らず、2班に分かれての会食となりました。ワインを片手にフレッシュチーズを使用した昼食を摂りつつ、酪農や生活の会話で盛り上がり、ソムリエの店長からのワイン、チーズの話にも興味津々に耳を傾けながら質問したり、笑いコミュニケーションに満ちた有意義な昼食会となりました。



▲ 和気あいあいと研修会スタート

後半のセミナーは、本会購買部酪農生産指導室の丹戸靖課長代理が講師となり、ワークショップを取り入れた全員参加型の研修会で、満足度の高い酪農経営について勉強しました。

参加者達は5班に分かれ、各班ごとに名前覚えのゲームで入り、「難しいねえ！」との協和音で和やかに始まりました。

各班に模造紙と2色の付箋が配布され、参加者たちは、①酪農をやめたいと思ったこと、②酪農をやっていてよかったことを2色の付箋に分けて書き出し、各班の代表者が、付箋が左右に貼り分けられた模造紙を掲げ、皆から出てきた牛、家族、牛乳、時間、仕事等々に関する前記①②の内容を発表しました。



最後に、丹戸課長代理は、仕事の満足感はどこから生まれるか？について、統計データから満足と不満の出所が違うことや、不満を感じる時は作業環境に、満足を感じる時は仕事そのものに注目していること等を示し、問題点や目標を明確にして皆で共有、努力すること、成果や努力を認め合うことが家族経営でも法人経営でも重要であることを強調して、女性研修会は終了しました。

(F.K)



▲ セミナー会場の様子

大阪
支所発

「兵庫県酪農農業協同組合創立総会」 が開催される

兵庫県酪農農業協同組合設立発起人会（会長：丸尾建城西播酪農協組合長）は、12月9日（水）神戸市西区の西神文化センター4階大ホールにおいて、創立総会を開催しました。

まず、発起人会を代表して丸尾会長が、兵庫県の酪農基盤が縮小している現状において、また、TPPの大筋合意など先行きが不透明な環境の中で、県内酪農組織の一本化により事業管理費の削減や集送乳の効率化などを進めることによって、安定的な酪農経営の継続と次世代を担う後継者の育成が可能となる「より良い酪農協の創立」を目指しますと、力強く開会の挨拶をされました。続いて、多数の来賓が出席された中、代表して農林水産省近畿農政局堀田畜産課長、兵庫県農政環境部新岡部長、兵庫県畜産振興議員連盟永田議員、全国酪農農業協同組合連合会清家代表理事専務、兵庫県酪農農業協同組合連合会塩見代表理事会長、兵庫県牛乳協会大野会長が祝辞を述べられました。11月末日時点の生乳出荷戸数（公共施設等を除く）は302戸、総会当日までに創立同意書を提出した戸数は258戸、開会時には本人出席77名、委任状出席、11名、議決権行使書160名となっており、総会は成立しているとの宣言がありました。

議長には、赤松氏（淡路島酪農協所属）が選出され、議事に入りました。第1号議案 定款の承認について 第2号議案 設立経過報告書及び事業計画書の承認について 第3号議案



▲ 開会の挨拶をする丸尾発起人会会長

役員の選任について 第4号議案 外部出資について 第5号議案 附帯決議について

いずれの議案も出席者の3分の2以上の大多数で可決承認され、新酪農協の創立が承認されました。

兵庫県酪連は、現在5つの酪農専門農協と4つの総合農協が会員となっていますが、その県酪連の平成26年6月の通常総会で、新酪農協設立に関する基本方針が承認され、同年8月には15名の発起人が出席し、新酪農協設立の第1回目の発起人会が開催されて、新酪農協設立に向けての協議が始まりました。発起人会12回、定款作成委員会4回、設立作業部会17回と慎重に協議が進められ、創立総会の日を迎えました。特筆すべき点は、全く新しい酪農協を設立し、兵庫県内の全酪農家に加入してもらって組織再編を行うという、全国でも例のない組織整備の方法です。

今後、行政庁である県の認可、組合員の加入・出資の取りまとめ、新酪農協の設立登記と手続を経て、平成28年4月1日から事業を開始することになります。また、県酪連の権利義務を承継するためには、既存組合の解散や県酪連からの脱退などの手続が必要となりますが、まずは、兵庫県酪農農業協同組合の事業が順調にスタートし、組合員・役職員が一致団結され、大きな飛躍に向けて力強く歩んで行かれますことをお祈りいたします。



▲ 創立総会の様子

(I.Y)

東京
支所発

「平成27年度視察研修会」が開催される — 関東甲信越酪肉経営技術研究会 —

12月10日(木)～11日(金)の2日間、富山県・石川県において関東甲信越酪肉経営技術研究会（ひので酪農 江幡正健会長）の平成27年度視察研修会が行われ、8会員11名が参加しました。初日は、富山県農林水産総合技術センター畜産研究所（富山県富山市）を訪問、自給飼料・未利用農産物の飼料化への取り組み・研究内容と、富山県の酪農概況についてご説明をいただきました。

2日目は、石川県農林総合研究センター畜産試験場（石川県羽咋郡宝達志水町）を訪問、試験場の概要・沿革と取り組まれている研究内容について説明をいただき、また畜産環境（堆肥化処理、臭気対策）についての講義を受けました。

参加者からは、現場にてさまざまな質問・意見交換が行われ、非常に有意義な研修会となりました。

た。今回の研修にご協力いただきました皆様方に感謝申し上げます。（N.J）



▲ 研修の様子



▲ 富山県試験場



▲ 視察研修会 参加者一同

酪政連活動報告

平成27年10月～12月

日本酪農政治連盟

10/7

三役会議を開催(於:自由民主党 ブロック第2)

- ◆ 常任・中央合同委員会について
- ◆ 自由民主党酪政会総会について

常任・中央合同委員会を開催(於:自由民主党 902)

- ◆ TPP関連について
- ◆ 緊急要請について

自由民主党酪政会総会が開催される

10/20

日本の畜産ネットワーク TPP対策幹事会(平成27年度第3回)に出席

- ◆ 交渉結果の影響と対応について
- ◆ 要請文の作成について
- ◆ 今後の活動について

11/2

日本の畜産ネットワーク TPP対策幹事会(平成27年度第4回)に出席

- ◆ 各畜種の影響分析と要望について
- ◆ 今後のスケジュールについて
- ◆ 平成28年度農林水産関係税制改正要望について

12/3

三役会議を開催

(於:自由民主党 ブロック第4)

- ◆ 常任・中央合同委員会について
- ◆ 自由民主党酪政会総会について

常任・中央合同委員会を開催(於:自由民主党 701)

- ◆ 平成28年度畜産・酪農対策に関する要請について
- ◆ 第24回参議院議員通常選挙について

自由民主党酪政会総会が開催される

12/4

自由民主党 畜産・酪農小委員会にて、平成28年度畜産・酪農対策に関する要請を実施した(佐藤副委員長)



No.272
有ビッグファミリー
青森県東北町

野田頭和義さん ▲



◀ 社訓

日本酪農



ビッグファミリー 大きな幸せ。家族とともに

地域の概要

今日お訪ねする有ビッグファミリーは青森県東北町にあります。

東北町は下北半島の付け根に位置し、「駅伝の町」として知られており、県内全市町村が参加する青森県民駅伝競走大会では町の部で13連覇を果たしています。また、昭和25年に発見された「日本中心」と書かれた1・5 mほどの巨石は、坂上田村麻呂が矢の矢尻で文字を書いたとされる「壺の碑」（つぼのいしぶみ）ではないかと言われます。



▲牧場全景



ており、同町にある日本中央の碑保存館に保存されています。

有ビッグファミリーが所属するゆうき青森農業協同組合（酒井一由代表理事組合長）は、酪農家戸数100戸、生乳出荷数量41,954 t（平成26年度）となっています。

牧場概要

有ビッグファミリーの代表を務める野田頭和義（53才）さんは、奥さんの恵子さん（48才）、一昨年酪農学園大学を卒業して就農した長男の洸重（ひろつぐ）さんと従業員2名を含めて5人で約230頭の牛を管理しています。ご家族は他に、開拓初代で苦勞を重ねた母親の和江



▲TMRミキサー (24m)

さん、今は酪農学園大学に在学する次男の昂寿^{たかひさ}さん、東京の専門学校に通う長女の優佳^{ゆうけい}さんと、地元農業高校に通う三男の千博^{ちひろ}さんの7人家族。まさにビッグファミリーです。

開牧から

昭和32年に、父である義雄さん（故人）が国のパイロット事業で入植し、野田頭牧場はスタートしました。10頭も入らない牛舎と4町歩程度の割り当てられた農地で、1〜2頭の乳牛と農耕馬とともにスタートしたそうです。冷害に遭うたび酪農をもっと強化しなければとの思いから、徐々に規模

を増やしました。

「昭和53年に親父が建てた44頭牛舎は今は哺育牛を入れていますが。もう雨漏りもひどくて。現在の230床のフリーストール牛舎は平成15年に完成しました。」

「子どもの頃は家業を継ぐことは考えていませんでしたが、親父から地元の農業高校を強く勧められ、止む無く進学しました。7人きょうだいの長男ってこともありまして、半分は仕方ないのかなと。しかし、在学中にロータリーパーラーを知り、『こんな飼い方があるんだ』と革新的な技術に驚き、どうせやるならこれを目指そうと、大きな夢をもって卒業後実家に戻りました。

しかし、夢を叶えたい自分と、今までのやり方を押し付ける親父とは衝突を重ね、22才の時には、とうとう親父が通帳と実印を突き付けて『そんなに言うなら好きなようにやれ！』って。それ以降は、親父は畑や機械の購入などには一切口を出さず、その代わり自分も親父を頼ることができなくなったなど。いよいよ本気になりました。」

ロータリーパーラーに フリーストール牛舎

「高校からずっと夢に描いていた大きな牛舎での経営と、家も改築しなければならなかったの思いから、結婚後に運転代行のアルバイトをしました。夜の9時ごろから2時ごろまで、10年ぐらい続けましたよ。もちろん日中の仕事は手を抜くことはしませんでした。草刈りやらなんやらのバイトもやったりして。女房には家を建てようと言いつつも、本当は牛舎新築の資金を貯め続けました。

いざ牛舎新築を打ち明けるときは『家を新築しても儲からない。でも牛舎からは金が生まれる。家はそれからでも建てられる』ってね。実際、家を建て替えたのはまた10年ぐらいかかっちゃって女房には悪いことでした（笑）。」

「平成15年にロータリーパーラー（24頭）と230床のフリーストールが完成しましたが、当時は粗飼料を購入しても採算が取れていました。しかし、牛が揃い始めた頃から乳製品の在庫が徐々に



▲フリーストール牛舎

過剰になり、減産型の計画生産になりました。搾るなど言われても借金の返済はあるし、エサ代は上がってくるので、大変な時期でした。堆肥処理のためにも徐々に自給飼料畑を手当てして、今は自前の40町歩と近隣の借地を含めて80町歩ほどになりました。チモシーを主体に生産し購入粗飼料はありません。」

「しかし、畑は点在しているから適期刈取りが難しく苦勞しています。余った分は足りない農家に販売もしています。他に、普及



▲ロータリーパーラー (24頭)

所からの紹介もありSGS(ソフトグレインサイレージ)や稲WC S(ホールクロップサイレージ。いずれも飼料用米。)も利用しています。ちよつと厄介なのは、生産するコメ農家は作るほどに補助金が入る仕組みですが、播種する前に契約する我々は豊作であつても引き取らなければならぬ、余る年もあるんで無駄になつてしまうこともあります。」

現在の取組み

「農協の役員になつたのも今の牛舎が完成する前後でした。若いころから当時の執行部には食つて

掛かつていましたが、『そんなに言うならこっち側に入つて同じ土俵で議論しよう』と言われて役員になりました。反発しながらも良きライバルとして迎えてもらえたようで、若いころから心の広い大先輩たちに鍛えられ、今思えばまだ青臭い私を相手にとても良い指導をしていただきました。

農業委員もやりますんで、TPPや制度・施策などいろいろ情報が入ってくるし、知つていなければいけない。地域の仲間と今やらなければいけないこと、これからやらなければいけないこと、いろいろ考えなければいけませんね。」

「この東北町輝ヶ丘地区の生乳で作つている『あおい森の牛乳』も、仲間が減つて産地限定が危ぶまれていきます。農協だけでなく、県、全国でも同じような状況になつていきます。乳価が上がつてメシが食えているかと言えはそんなことはない。生産資材はそれ以上に高止まつている。コストが下がるのであれば、メシが食えるだけ残して安い乳価でもいい。そうなればい

いんだが実際は全くそうではない。やる気のある後継者には、農協でもどこでもバックアップして後押ししなければ。継続は力なりです。高齢であつてもあと5年、あと3年でも続けられるように仲間が協力し合わなければいけない。」

これからのビッグファミリー

「長男が高校在学中に、『息子には後を継いでもらわなければ困る。技術もそうだが、経営者としての感覚も磨いてもらいたい。大学にも行つて専門知識を習得してもらいたい。』と担任の先生に訴えました。また、上の二人が農業高校在学中に酪農学園大学のオーブンキャンパスに兄弟3人を連れて行き、教授先生に『3人ともしっかりと面倒見てください』と直訴したりもしました。自分が後を継ぎたくなかつたことは棚に上げてね(笑)。

子どもが成長するにつれて金がかかることは分かつていましたけれど、子どもが帰ってくるから牛舎を大きくしておかなきゃつて。そのために長期的な視野が必要で

すよね。早くから先を見て人生計画を立て、そのための段取りをして。運転代行のバイトもそのためだったんですよ。行き当たりばったりじゃ駄目です。息子が継ぐ気になつていたのも後ろ盾になりましたね。」

「次男が帰ってくることもあり、哺育育成舎を道路の向かいに作るうと計画しています。そうすれば今の230床あるフリーストールは搾乳牛で一杯になります。なんだかバックギアが無い車を運転している感じになつてきましたけど(笑)。」

終わりに

平成3年に結婚した野田頭夫妻は、来年銀婚式を迎えます。あつという間の25年だったようですが、地元農業高校でラグビーに熱中している三男の千博さんも含め「将来は兄弟3人が一緒にやつてくれたらいいですね。生産だけではなく、6次産業化、販売部門もできたらいいなと、夢は広がります。」と、大きな期待が持てる(有)ビッグファミリーでした。

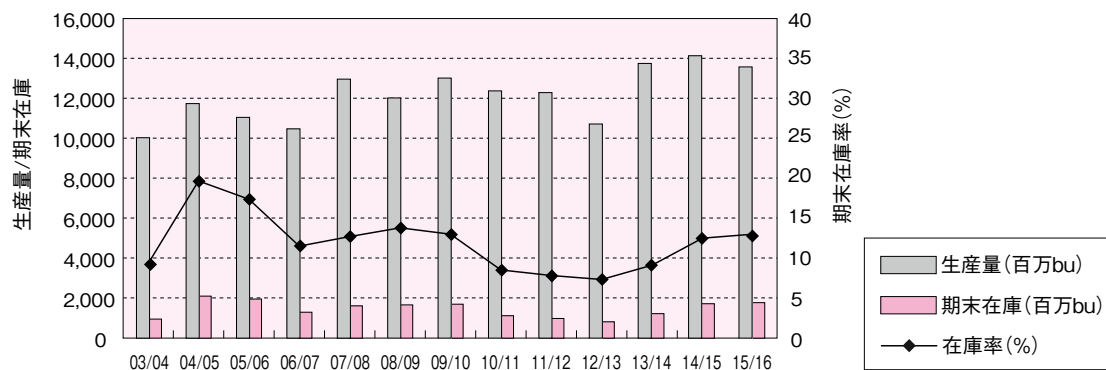


原料情勢

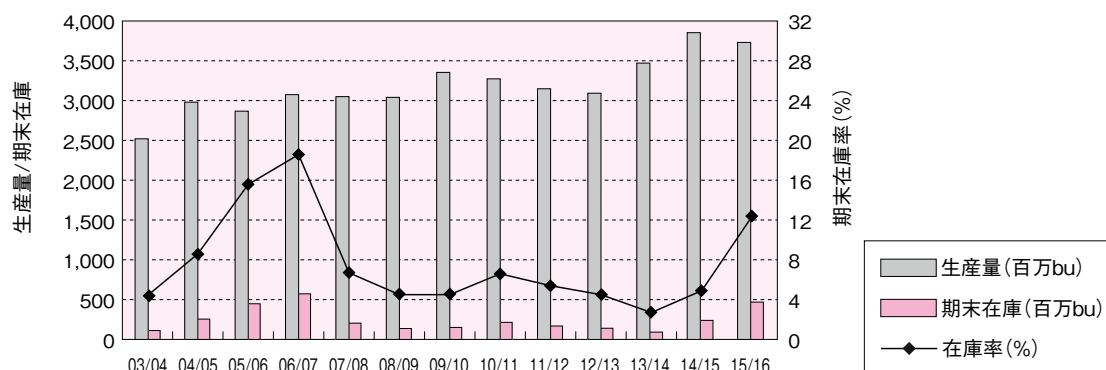
平成27年12月

12月9日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【14/15年産】 作付面積90.6百万エーカー、単収171.0bu/エーカー、生産量142億1,600万bu、総需要量137億4,800万bu、期末在庫17億3,100万bu、在庫率12.6% 需給両面で変化なし。
	【15/16年産】 作付面積88.4百万エーカー、単収169.3bu/エーカー、生産量136億5,400万bu、総需要量136億3,000万bu、期末在庫17億8,500万bu、在庫率13.1% 需要面が減少し、期末在庫は増加した。
トウモロコシ 相場動向	先月の発表以降の動きは、輸出等の需要の弱さから軟調に推移し、一時、他の穀物につられて上昇したものの、農家売りが上値を抑え再び軟調に動いた。供給面では変化はなかったが、全体的な需要は先月より減少したため期末在庫は増加した。今後のシカゴ相場は、依然として米国産トウモロコシの輸出競争力は南米産に押されており、世界的に穀物の在庫が豊富な中で軟調に推移していくと思われる。
12月9日発表 米国農務省 大豆需給予想	【15/16年産】 需要供給両面で変化はなく、期末在庫は据置かれた。発表内容は需要面で輸出が思ったほど伸びておらず、市場の事前予想を上回る数字となった。期末在庫4億6,500万bu、在庫率12.4%
大豆粕相場動向	国内産大豆粕は、菜種対比で搾油採算が良好なことから大豆搾油は前年対比約110%を維持して推移している。今後は来春にかけて定期修理に入る搾油メーカーが多く、受け渡しには注意を払いたい。今後のシカゴ相場は、米国産大豆が史上最高の豊作となり供給が需要を上回っており、さらには来春に収穫を控える南米も天候不安が少ないことから軟調に推移している。
糖類	【一般フスマ】1月の粉価（小麦粉）改定が値下げの見通しであることから、取り控えが予想されフスマの発生量は大幅な減少が見込まれていたが、若干の減少で収まる見込み。需給バランスは適正で推移している。1月以降、粉価値下げによる発生量の増加、需給の緩和が期待される。
	【グルテンフィード】国内スターチメーカーでは発生量は前年並みとなっているが、前年が例年対比大幅に不調であったため、スターチ・異性化糖の低迷状態が継続しているものと思われる。しかし、10-12月期の配合原料用価格改定は値上げとなったことから配合割合の減少が予想され、輸入品も徐々に入船してきていることから、需給は緩んでくるものと思われる。
海上運賃	原油価格の下落、中国の環境問題からの石炭規制を背景に、前月よりさらに下落し軟調に推移している。今後も輸送需要が低調に推移し、燃料相場も軟調な見通しから、引き続き海上運賃は軟調に推移していくと思われる。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成27年12月

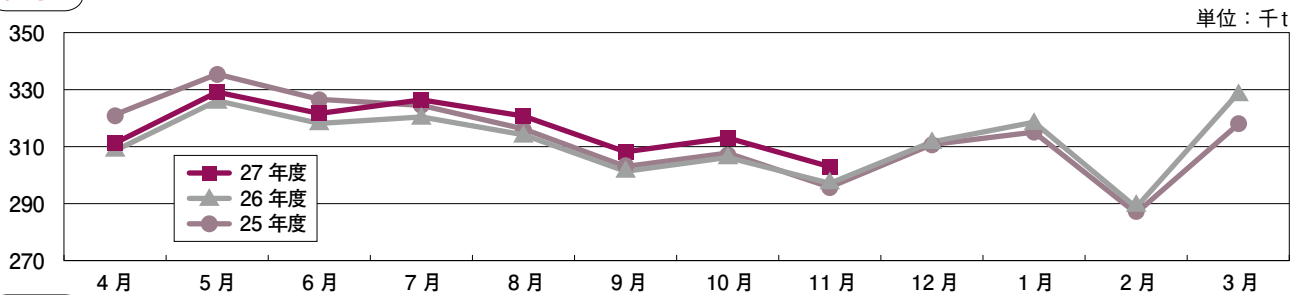
北米コンテナ船フレート	アジアから北米に向けた貨物の数量は、今年10月単月前年度比で3.7%減となり、北米向けの貨物量が単月で前年度比マイナスとなるのは8か月ぶりとなる。しかし、北米からアジアに向けた貨物は引き続き伸び悩んでいるため、輸出入のバランスは依然として是正されていない。これに伴い、北米出しアジア向けの海上運賃は低迷を続けており、太平洋航路安定化協会 (TSA) は11月末に段階的な値上げを発表したが、この発表に拘束力はなく、ほとんどの船会社はアジア向けの貨物を確保したいため、大幅な海上運賃引き上げは考えにくい状況である。
ビートパルプ	【米国産】2015年産は、作付前には干ばつによる水不足、作付後には降雨過多による影響が懸念されていたが、その後の天候は良好で収穫量は例年を上回るものとなった。新穀価格は主原料等の価格に同調する形となり、昨年の開始時より軟化している。
アルファルファ	北米西海岸各地での2015年産の収穫はほぼ終了しており、産地価格は米国乳価下落の影響により低調なスタートとなっている。各主産地の総括と現状は下記の通りです。
	【ワシントン州】1番刈が史上最悪とも言われる降雨被害を受け、2-3番刈は異常ともいえる高温乾燥の影響でドライなものが非常に多くなり、上級品の発生は限られたものになった。その後、4番刈からは気温が下がり生育環境が回復したため、上級品の発生が多くなった。また、今年は1番刈のスタートが例年より早く、その後の高温によって収穫スケジュールが産地全体で前倒しになり、多くの圃場で5番刈まで収穫された年でもあった。
	【オレゴン州】ワシントン州1番刈不作の影響を受け、国内外問わず良品の需要が主産地のひとつであるクリスマスバレーに至り、当産地価格は他産地より下がる事なく相対的に高止まる結果となった。一方、クラマスフォールズでは1番刈の生育期間に急激に気温が低下した時期があった影響で、例年より茶系の茎が多い作柄となった。それ以外は2-3番刈含め、ほぼ例年通りの作柄となった。
	【ネバタ州、ユタ州】両州ともに1番刈は30%前後の雨当たりとなった。雨に当たっていないものは成分はあるものの、やや過乾燥な傾向であった。2番刈以降も基本的に大きな降雨被害はなく作柄は例年並みだったが、産地価格は中国向けの堅調な需要に支えられ、他産地に比べ下げ幅が少なく推移した。
チモシー	【カリフォルニア州】全米最大の酪農州であるカリフォルニアの生乳生産量は、低調な乳価の影響により前年に比べ5.5%減少の見込みとなっている。州内でのアルファルファへの需要は、基本的には低調なうえ給与量も減少しているが、高品質・高成分なものへの需要は存在し、これらは相応の価格で取引されている模様。乳価が好調だった2014年に買いだめしている現地酪農家もあり、これらの在庫がなくなるタイミングで需要が回帰してくるとの見方がある一方、低級品の繰越在庫も例年より多く、上級品の在庫は少ないとの情報もある。今後の産地価格や2016年産スタート価格の予想は非常に難しい環境となっている。
	【米国産】2015年産は生育期に降雨が続いたが、収穫期には天候に恵まれた年になった。降雨や倒伏による茶葉の発生が散見され、酪農用プレミアムの発生は例年より少なく、中間グレードのものが多くなった。2番刈は生育期の天候が高温続きであったため茶葉や雑草の混入が多いと言われているが、雨当たり品などの低級品の発生は限られたものになった。産地価格は近年の価格高騰による日本側の需要減を受け、大幅な値下げでスタートした。現在、秋の播種を終え発芽し始めたところであるが、11月中旬の暴風により圃場に影響が出たとの情報があり、そのため、2016年産の作付面積に影響が出てくるのではとの懸念されている。
スーダングラス	【カナダ産】2015年産の生産は全て終了している。干ばつの影響により上級品はカナダ国内の馬糧向けへ、低級品は肥育向けへの需要が高く、産地価格は全般的に堅調で推移している。飼料向けの小麦・大麦の価格が昨年比10%程度上がっており、チモシー生産農家も一定の収益が確保できたことから、2016年産の作付面積は今年並みか微増するのではないかとされている。
	主産地インベリアルバレーの2015年産は、相場が好調だったデュラム小麦作付増の影響により、早播きスーダンの作付が例年に比べ30%程度減少した。産地価格は、港湾問題の影響により日本側が在庫過多のまま新穀の買付シーズンを迎えたため、引き合いは限られ相場は下がる結果となった。しかし、品質面では不安定な天候の影響で過去2年と比較すると茶葉や雨当たりが多く、良品の発生は少ない。2016年産の動向は、デュラム小麦の相場が2015年スタート時から一転していることから、現在のところスーダンの作付面積への影響は2015年産ほど大きくないと予想されている。
クレイングラス	作付面積は全体を通して微減となったが、主要な需要国である日本・韓国への輸出量は横ばいから微減であるため、需給のバランスは乱れていない。2016年産の作付面積は、生産農家の作付意欲に大きな変化は無いため、大きな増減は無いと予想されている。
ストロー類	2015年産の収穫は全て終了している。韓国においても日本と同様に国産粗飼料の消費を推奨する動きがあるが、例年輸入枠が更新される1月からの船積みは回復してくると予想され、今後の韓国の荷動き次第では年明け以降の価格動向に影響してくる可能性がある。
オーツヘイ	【西豪州】オーツヘイの収穫は終了し、ストローの収穫が開始されている。収穫期の天候は良好で、雨あたり品の発生はほぼ無い状態で上級品の比率が非常に高くなっている。単収については、西豪州南部ではやや少なめ、北部・中部では例年並みとなっている。
	【南豪州】西豪州と同様に、収穫期の天候に恵まれ大多数が上級品という作柄である。生育期の降雨が他の2州に比べて多かったことから、単収は例年並みからやや多め、上級品の発生は例年の70%前後。残りは成分がやや劣る中級品となっており、中級品の発生率は他2州より多くなっている。
	【東豪州】他2州同様に収穫期の天候に恵まれ、ほとんどが上級品となっている。生育期の降雨量が少なく早ばつ傾向であったため、単収は低いが他産地に比べ分析値は高い傾向にある。一方でプレス後の仕上がりは単収が少なく茎丈も低いいため、やや茎が細かめになりやすい作柄となっている。

生乳受託販売乳量

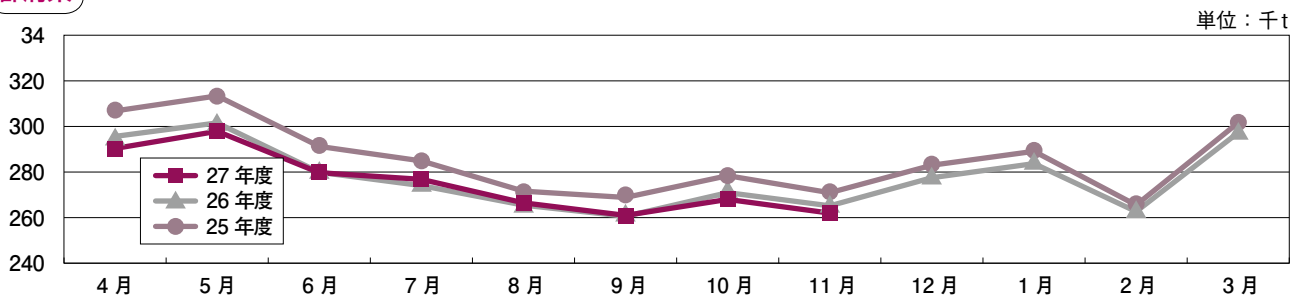
受託販売乳量

全国 564,963t で、前年同月比 2,659t(0.5%) 増加
 都府県 261,991t で、前年同月比 3,190t(1.2%) 減少
 北海道 302,972t で、前年同月比 5,849t(2.0%) 増加

北海道

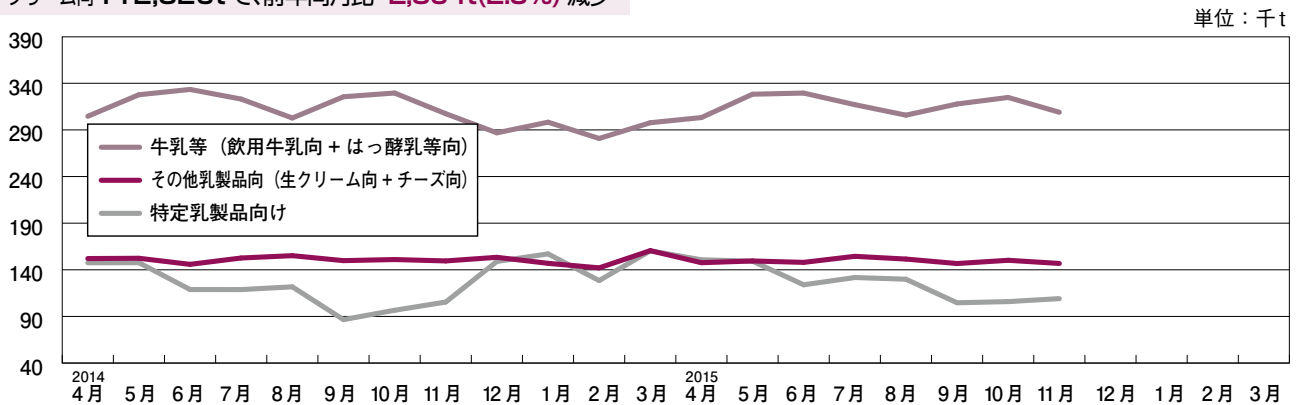


都府県



用途別販売数量

飲用向 273,145t で、前年同月比 373t(0.1%) 減少
 はっ酵乳向 35,765t で、前年同月比 1,924t(5.7%) 増加
 クリーム向 112,826t で、前年同月比 2,864t(2.5%) 減少
 チーズ向 34,044t で、前年同月比 225t(0.7%) 増加
 特定乳製品向 109,183t で、前年同月比 3,747t(3.6%) 増加



各地の需給動向

- 【東北】11月生乳生産は前年比99.7%。月間通して域内需要は動きが鈍く、域外向けが増加した。飲用牛乳向けは97.6%、はっ酵乳向けは115.8%、特定乳製品向けは100.1%となった。
- 【関東】月間生産量は99.9%。冷え込みが緩やかで思いのほか生産が維持できた産地もある。処理はほぼ予定通りに推移し、飲用牛乳向けは101.1%。特定乳製品向けは90.9%となった。
- 【東海】生産は前年比96.4%。前月同様、前年比を大きく割って推移。飲用牛乳向けは91.8%、はっ酵乳向け133.4、特定乳製品向けは95.6%となった。
- 【近畿・中国・四国】生産は近畿99.8%、中国100.1%、四国93.4%。日量は月内ほぼ横ばいの推移となった。処理は飲用牛乳向けにおいて、近畿100.0%、中国100.3%、四国92.2%となった。
- 【九州】生産は前年比97.9%であり、当初見込みを下回って推移した。処理は域内において好調なメーカーも見られた。飲用牛乳向けは95.8%、はっ酵乳向けが109.7%、特定乳製品向けは95.8%となった。

全国酪農協会発行の 企画・制作・出版書籍のご案内



「牛群検定クイックチェック」 ～早わかり～

著者：相原 光夫

●定価2,400 円(税込・送料別)

●企画A4 判 155 頁

全酪新報連載中の「牛群検定ワンポイントレッスン」を中心に再編増補して、検定成績表の見本を中心としたワンポイントずつの解説、本書全体を読まなくとも見本だけで自分の成績表と照らし合わせて読んでいただけるような構成にしています。



「ウシのきもち・ヒトのきもち」 ～乳牛獣医師の四方山ばなし～

著者：山下 厚

●定価1,000 円(税込・送料別)

●企画A6 判 468 頁

ぐちを言うでもなく、不満のひとつも漏らすことなく人間さまのために黙々と働くウシたち。そのそばでウシたちを32年間見続け、ウシたちになり代わってウシの心情、ホンネをのべた1冊。

●本のご購入、お問い合わせ先は、
一般社団法人 全国酪農協会

電話：03-3370-5341(指導部) <http://www.rakunou.org/>



近未来の 酪農経営に備える

10年後のための
酪農経営戦略



全酪連は、2016年1-2月にコーネル大学名誉教授ラリー・E・チェイス博士を招聘し、全国6会場にて、全酪連酪農セミナー（平成27年度）を開催いたします。講師のチェイス博士は、永年に亘り、酪農現場における普及活動に多大なる貢献をされてきた方です。また、2014年の10月より全酪連技術顧問として、豊富な知識と経験に基づく有益な情報を発信して頂いています。今回の酪農セミナーでは、将来の酪農産業へ向けたメッセージに主眼を置いた「酪農現場に重要な技術（考え方）」を内容として予定しています。また、セミナーとは別に、研究者・指導者の皆様向けに「次世代の農場現場指導のあり方」と題したワークショップも開催します。是非ご参加ください。

講師略歴 ラリー・E・チェイス博士 (コーネル大学 名誉教授)

1966年 オハイオ州立大学・酪農学科卒
1969年 ノースカロライナ州立大学 修士号取得
1975年 ペンシルバニア州立大学 博士号取得
1975年 コーネル大学・畜産学部助教授
1981年 同 准教授
2004年 同 教授
2011年 全酪連 酪農セミナー 講師
2014年 コーネル大学 名誉教授
2014年 全酪連 技術顧問

【これまでの研究及び指導領域】酪農現場における技術普及事業を主体に、普及員・飼料業界への乳牛栄養情報と訓練、コーネル大学栄養学会議長、飼料設計プログラムの技術支援とトレーニング、ハイブリットコーンサイレージの評価、トウモロコシ加工法による消化性への影響、CNCPS/CPM Dairyの現場応用及び農場の窒素排泄管理、世界14か国における講義・セミナー を実施

【現在の学会活動】米国酪農学会・米国畜産学会・米国家畜プロフェッショナル科学者学会・米国獣医栄養学会の委員と講師

【論文・記事執筆】酪農家向け普及文書483、学術誌論文57、書籍執筆11、学会論文218、雑誌寄稿75

日時と場所

1月25日(日)	熊本セミナー	火の国ハイツ
1月28日(水)	帯広セミナー	ホテル日航ノースランド帯広
1月29日(金)	全酪連ワークショップ	ホテル日航ノースランド帯広
2月1日(日)	岡山セミナー	岡山国際交流センター
2月3日(火)	名古屋セミナー	名古屋通信会館
2月5日(木)	仙台セミナー	フォレスト仙台
2月8日(日)	那須セミナー	ホテルエピナール那須

各会場とも開会は10:00、閉会16:00となります

参加費 1名様 ￥5,000（テキスト・昼食代含む）

対象 酪農家・組合役職員・公的指導機関、あるいは研究者・獣医師・コンサルタントの方々

内容

酪農セミナー2016

【第1章】酪農産業の過去・現在・未来

- 日米の酪農業界の変遷、将来に向けた準備・教育プログラム

【第2章】農場経営

- 世代交代・農場継承の選択肢
- 農場の自動化と選択肢
- 農場の財務管理

【第3章】乾乳牛と子牛

- 乾乳牛に対する暑熱対策の方法とその効果
- 初乳に関する新情報

【第4章】高泌乳牛群の飼養管理

- 高泌乳牛の特性と栄養・飼養管理
- 事例検討と先人の格言
- 最新栄養情報；新しいNDF概念

ワークショップ2016 ～次世代の酪農現場指導～

【第1章】農場訪問のあり方

- すべき事、してはならない事
- 農場訪問する意味と注意点・着眼点

【第2章】普及員、企業栄養士、コンサルタントの酪農現場における役割

- 普及員と企業・コンサルタントの立ち位置・役割の違い、米国事例紹介
- 目標設定とそれぞれのすべき事・すべきでない事
- 人的資源

【第3章】CNCPSの過去・現在・未来

- CPM Dairy, CNCPS, AMTSとNDS その歴史と将来
- CNCPSの生い立ち、CPM Dairyの功績
- CNCPS v6.1からv6.5で変わったこと
- CNCPS v7は？

お申し込み・お問い合わせは、最寄の全酪連支所まで



北海道 乳牛産地情報

平成28年1月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~35	→	札幌管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計98.1%、累計で98.5%、苫小牧管内月計で101.6%、累計で100.5%の実績となっている。 1月の初妊牛動向は、3月~4月分娩のF1腹が中心となり、北海道内の相場が上昇することを受け北海道管内の引き合いも強くなる見込み。出回る頭数は例年並みの資源となるが、荷動きが早くなっておりますので早めの導入が重要になってきます。高血統、高能力の牛が多い地域でもあり、様々なタイプのご注文に対応可能です。
	初妊牛	58~60	▲	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	35~40	▼	根釧管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で104.3%、累計で102.4%、中標津管内月計で100.7%、累計で100.6%の実績となっている。 1月の初妊牛動向は、3月~4月分娩の中心となる。12月の根室市場では初妊牛平均655千円(税込)の高値となった。今後も春産みを中心となる事や、引き続き道内、都府県ともに活発な導入が予想される事から更なる相場の上昇も予想される。荷動きも更に早まるため、早めのご注文をお願いいたします。また、価格を優先される場合は、やや割安な通常精液を授精したホル腹の導入もご検討ください。
	初妊牛	60~70	▲	
	経産牛	45~50	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	32~40	▼	帯広管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.4%、累計104.4%での実績となっている。 1月の初妊牛動向は、3月~4月分娩が中心で、例年々明けは道内・道外問わず導入需要の増加に加え、上場頭数も秋より少なくなることから引き合いはかなり強くなる。今年は、ここ数ヶ月の相場の高止まりと12月相場の急騰からさらに相場は一段と上昇するものと予想される。庭先購買の動きとしては、3か月前の遠めの分娩牛を早めに確保する動きが必要と思われる。
	初妊牛	60~68	▲	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	35~40	→	道北管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で102.4%、累計で101.1%、北見管内月計で100.8%、累計で100.7%の実績となっている。 1月の初妊牛動向は、3月~4月分娩中心となり、導入腹についてはF1腹主体の動向だが、春先に向けて後継牛対策である雌雄選別、ホル腹の需要が増加傾向にあり価格も上昇している。今後、春先の分娩牛については、今までと異なりF1腹だけでなく、X腹、ホル腹も後継牛確保に向けて都府県や道内大型牧場の購買の需要が増加傾向にあり、相場全体の価格高騰は避けられない状況です。
	初妊牛	58~68	▲	
	経産牛	45~50	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	35~40	→	道内の12月中旬までの生乳生産量前年比は102.1%、累計で101.7%の実績となっている。 1月の初妊牛動向は、3月~4月分娩中心となる。年明けの需要は多く、出回り頭数的に品薄感があるため全道的に価格が急上昇し、中クラス初妊牛としては65万からの値動になると予想される。価格帯では上物クラスは高値安定、スノ物クラスは底上げが強くなり、価格差が狭まっている(牛の差ほどは価格に差がない状況)。導入する側としては大変厳しい状況となる。年明けの荷動きは特に早くなると予想されるため、3か月前まで見越した購買計画を立てられ、早めのご注文をお願いいたします。
	初妊牛	60~68	▲	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

ドキドキの出産

今月の表紙は、「第6回酪農いきいきフォトコンテスト」(第44回全国発表大会にて開催)で入選に輝いた作品「ドキドキの出産」(茨城県小里 郁氏 撮影)です。「どうか無事に生まれて…」と、祈る2人の息づかいまで分かるような、緊張感が伝わる一枚です。



編集後記



▼明けましておめでとうございます。干支は農業との関わりあいが強く、農作物の生長過程を表す意味をもっています。

今年の干支「申」の意味は、「草木が十分に伸びきった時期で、実が成熟して香りと味がそなわり堅く殻におおわれていく時期」とされています。また、「申(サル)」には「去る」という意味もあり、「悪いことが去る」「病が去る」とされています。皆さまにとって実りある一年となりますよう、祈念いたします。

平成28年1月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 1月号 No.604

●編集・発行人 大森 一幸

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品紹介

山の近くにいる牛

喜多方市立第二小学校(東北)5年 串田 鉄人



今月の入賞作品は、喜多方市立第二小学校(東北)5年の串田 鉄人さんの作品です。
爽やかな青空のもと、大自然の中で、ゆったりと草を食む牛さんたちを小気味よい筆のタッチで表現した作品です。顔の輪郭にグレーを用いて愛嬌のある表情を作り出しています。画面手前に描かれた草の描き方も独特の筆使いで面白いですね。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第42回らくのうこどもギャラリー」で全国588点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議